

履修概要

2026年度



鳥取県立倉吉総合看護専門学校
助産学科

1 教育理念・教育目的および教育目標

【教育理念】

豊かな人間性と専門的な知識・技術を有する看護職を養成することを教育の目的とする。生涯にわたって自己研鑽に努め、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職の養成を目指す。

【教育目的】

対象の生命や人間としての尊厳と権利を尊重し、そのニーズに対して倫理的に応答するために科学的根拠に基づいた助産の専門的知識・技術を有する助産師を養成する。

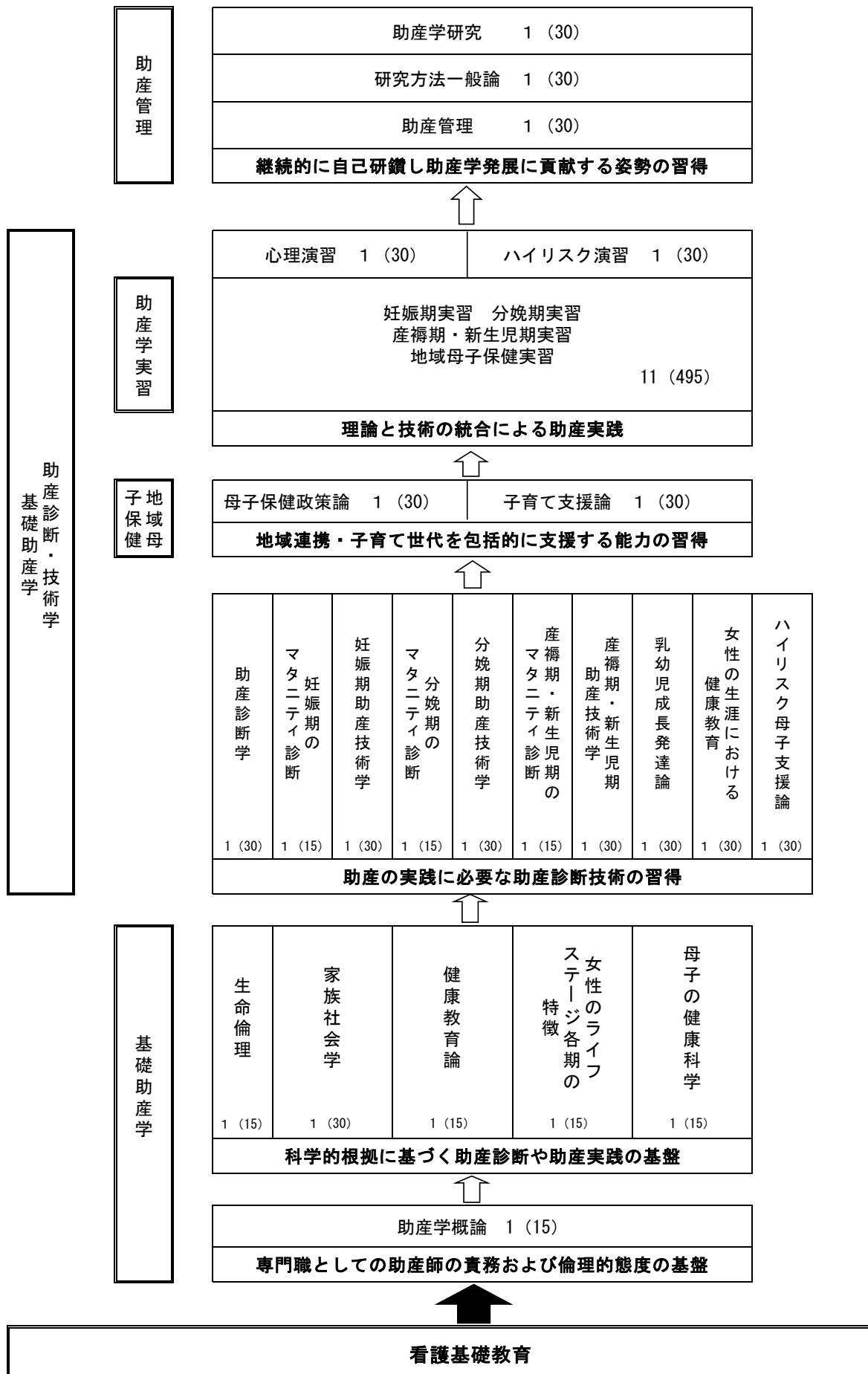
社会の動向に関心を向け、国際的な視野を広げ、保健医療福祉システムにおける自己の役割を認識し、鳥取県及び地域社会に貢献し得る助産師を養成する。

自律した専門職として、生涯自己の資質の向上に努める人材を育成する。

【教育目標】

1. 対象のニーズを的確に捉え、情報の保護を遵守し、女性と子ども及び家族との間に信頼関係を築きつつ平等で最善のケアを提供する能力を養う。
2. 分娩を核とするマタニティサイクルにおいて、多職種と連携・協働しながら、母子及び家族に、安全で有効な助産ケアを提供する能力を養う。
3. ライフステージ各期の対象への健康教育、知識の普及・啓発、健康相談などを行い、さまざまな発達課題・健康問題に対し、対象自ら対処できるよう支援する能力を養う。
4. 自律した専門職として、助産ケアの改革や質の向上を目指し、生涯にわたって主体的に自己研鑽できる能力を養う。

2 教育課程の構造図



3 教育内容

【基礎助産学】

生涯を通じて、性と生殖に焦点を当てて支援する活動である助産の基礎的な概念および対象の特性を理解し、助産師の専門性、助産師に求められる姿勢・態度を養う。また、母性・父性を育むことを支援するための能力を養い、対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面を統合的にアセスメントする能力を養う。

科目	単位	時間	授業概要
助産学概論	1	15	助産の基本概念を踏まえ、母児の命を同時に尊重することに責任を持つ助産師の役割と責務を理解し、助産師としてのアイデンティティを形成するための基礎を学ぶ。
生命倫理	1	15	人間の性と生殖に関する基礎的知識を得、身体的、精神的、社会・文化的側面から性と生殖にかかわる諸問題について考察する。また、不妊の現状や出生前診断の概念を理解し、助産師としての倫理観を持って、不妊の悩みを持つ女性および出生前診断に関わる妊婦とその家族への支援を学ぶ。 1. 生殖医療・生命倫理 2. 不妊症看護 3. リプロダクティブヘルスへの支援
家族社会学	1	30	現代家族の諸相への問いを整理したうえで、家族社会学の古典的な学説における家族の定義、概念、構造、機能などを概観し、ライフサイクルの支援から配偶者選択、結婚、子どもの社会化、親の扶養などの各論を考察する。そして、子どもの健やかな心身の発達を促すための母性と父性の発達、愛着形成、マタernalアタッチメントなどの親役割獲得への基礎的知識を学ぶ。 1. 家族の概念 2. 親子関係と子どもの発達 3. 発達や社会性への支援
健康教育論	1	15	相談・教育・援助活動の基本を理解し、個人および集団に対するアプローチ方法を学び、助産師として健康教育を展開するための基礎を学ぶ。 1. 相談・教育の基礎と実際 2. 相談・教育活動の過程
女性のライフステージ各期の特徴	1	15	ライフステージ各期における性と生殖の構造や機能を理解し、各期の特徴を踏まえた特有の健康問題に対して、助産師に必要な支援を学ぶ。
母子の健康科学	1	15	母子の健康に影響を及ぼす因子である「栄養」「物理・化学的環境」「嗜好・薬物」「運動」についての基礎的知識を学ぶ。多様なライフスタイルをもつ母子や女性を理解し、その人にとって健康な生活のあり方を考察する。 1. 母子と栄養 2. 母子と生活環境 3. 母子と運動 4. 母子と嗜好・薬物および補完代替医療
心理演習	1	30	対象と良好な人間関係を構築するために、自身の傾向を見つめ直し、援助者に必要な基礎的知識を学ぶ。また、実習での体験を基に自身の関わりを客観的に振り返り、対象のニーズに即した支援について考察する。

【助産診断・技術学】

妊娠期、分娩期、産褥期・新生児期、乳幼児期の正常経過と逸脱の判断および援助について理解し、助産の実践に必要な基本的技術と他職種との専門性を尊重し、適切な役割分担と連携の下で支援を行うためのコミュニケーション能力を養う。また、女性および家族への生涯にわたる健康への継続的な支援を行うために必要な相談・教育ができる実践能力を養う。

科目	単位	時間	授業概要
助産診断学	1	30	妊娠期・分娩期・産褥期の助産診断を行うために正常経過についての知識を得る。また、助産診断を行うために必要な、異常についての病態および診断・治療の知識を得る。
妊娠期のマタニティ診断	1	15	妊娠期の助産診断に基づいて、妊娠経過と健康生活診断に必要な知識について理解し、妊娠期のマタニティ診断を学ぶ。
妊娠期助産技術学	1	30	妊娠期の助産診断に必要な情報を得るための技術および妊婦支援を学ぶ。 1. 妊娠期のフィジカルアセスメント 2. 正常経過にある妊婦への支援 3. 助産師外来の実際
分娩期のマタニティ診断	1	15	分娩期の助産診断に基づいて、分娩経過と健康生活診断に必要な知識を得、分娩期のマタニティ診断を学ぶ。
分娩期助産技術学	1	30	原理に基づいた安全・安楽な分娩介助および産婦への支援を学ぶ。 1. 分娩期のフィジカルアセスメント 2. 分娩期における助産技術 3. 産婦と家族への支援 4. 分娩介助法 5. フリースタイル分娩
産褥期・新生児期のマタニティ診断	1	15	産褥期および新生児期の助産診断に基づいて、産褥および新生児経過と健康生活診断に必要な知識を得、産褥期・新生児期のマタニティ診断を学ぶ。
産褥期・新生児期助産技術学	1	30	産褥および新生児の支援に必要な技術を学ぶ。また、母乳育児支援について必要な知識および技術を学ぶ。 1. 産褥期・新生児期における助産技術 2. 母乳育児推進へのケア
乳幼児成長発達論	1	30	新生児の適応生理と乳幼児の成長発達について理解し、成長発達促進のための実践能力と助産診断のための知識・乳幼児の健康診査についての知識を得る。また、新生児に起こりやすい異常の病態・診断・治療・助産ケアと乳幼児に起こりやすい事故の予防と対策についての知識を得る。 1. 新生児の適応生理・異常 2. 乳幼児の健康診査・予防接種 3. 生後4か月までの助産診断・乳幼児の事故の予防と対策
女性の生涯における健康教育	1	30	ライフステージ各期にある対象の発達課題・健康問題を理解し、相談・教育を実践するための基礎を学ぶ。 1. 思春期・成熟期・更年期・老年期にある対象への相談・教育 2. ドメスティック・バイオレンス 3. 家族計画と受胎調節 4. 健康教育の実際
ハイリスク母子支援論	1	30	ハイリスク状態にある対象への支援に必要な知識を学び、心理的・社会的ハイリスク状態にある対象に対する支援を学ぶ。 1. ハイリスク妊産婦・新生児 2. 経過に異常がある対象 3. 産後うつ・愛着形成傷害 4. 喪失体験 5. 社会的ハイリスク妊娠
ハイリスク演習	1	30	分娩進行に伴う異常を予測し、予防的な支援をおこなうと共に、異常発生時や緊急時・搬送時の母子に対応するための基礎を学ぶ。 1. 異常の診断と対処法 2. 会陰切開および裂傷縫合 3. 新生児蘇生法 4. 異常発生時の介入 5. 周産期医療の動向 6. 緊急時・搬送時の介入

【地域母子保健】

地域の母子保健の推進、社会資源の活用および関係機関との連携について理解する。産後うつ等の周産期におけるメンタルヘルスや虐待予防等への支援を行うために、多職種と連携・協働しながら地域における子育て世代を包括的に支援する能力および産後4か月程度までの母子をアセスメントする能力を養う。

科目	単位	時間	授業概要
母子保健政策論	1	30	母子とその家族の暮らしを取り巻く環境(地域の特性)と健康との関連を理解し、その現状や課題について考察する。 母子保健活動および助産業務をおこなう上で必要な母子保健行政の体系について学習し、母子とその家族が居住する地域について理解を深め、子育て世代を包括的に支援するために必要な基礎的知識を得る。 1. 地域の特性と健康施策 2. 母子保健行政の仕組み 3. 母子に関する社会制度 4. 児童虐待防止への対応 5. 母子保健の動向 6. 助産施策 7. 地区把握
子育て支援論	1	30	様々な場における助産師の活動や他職種の活動に触れ、母子保健活動における助産師の役割や多職種との連携・協働を理解し、母子とその家族を支援するための地域ケアシステムやネットワーク構築に必要な知識を得る。 1. 地域における助産師の役割 2. 地域相談活動 3. 地域包括ケアシステム 4. 新生児訪問指導 5. 産後ケア事業 6. 多職種の活動の実際 7. 小児在宅医療 8. 児童虐待への支援

【助産管理】

助産業務の管理、助産所の運営の基本、周産期医療システム、周産期医療とその安全および災害に対する管理・支援体制について理解する。また、研究手法に関する基本的な知識を習得し、助産ケアの改革や質の向上を目指して自律した専門職として継続的に自己研鑽する姿勢・態度を養う。

科目	単位	時間	授業概要
助産管理	1	30	助産業務管理に必要な基礎的知識を理解し、助産の場に応じた助産管理および危機管理の実際について学ぶ。 また、海外での助産活動の実際についての学習および地域での助産活動の振り返りを通して、自己の助産活動を発展的に考察する。 1. 病院における助産業務管理 2. 助産所の業務管理 3. 災害対策・支援活動 4. 海外における助産師活動 5. 助産学の専門性の発展
研究方法一般論	1	30	助産の分野における研究の理解・研究倫理・文献学習・学会参加を通して、助産学研究の意義や動向を学ぶ。また、臨床の研究で使用頻度が高い質問紙の作成を体験する。研究計画書を作成する意義を理解し、実習中の体験からリサーチクエスチョンをたてる。 1. 助産学研究の目的と意義 2. 看護研究とは 3. アンケート用紙の作成 4. 研究計画書 5. 学会参加
助産学研究	1	30	疫学・保健統計の基礎的知識を理解し、情報の処理や管理ができる能力を習得する。実習で関わった対象への望ましい助産師としての支援を追究するため、助産学研究計画書を作成する。そして、自己及び他者評価を通じて、自律した専門職として継続的に自己研鑽し、助産ケアの改革や質の向上を目指し、助産学および社会の発展の貢献できる姿勢を習得する。 1. 疫学からみる母子保健統計 2. 研究計画書の作成

【助産学実習】

母子保健活動における助産師の使命を理解し、助産に関する理論と助産技術の統合を図り、自己の責任の下に母子保健活動が実践できる能力を養う。

科目	単位	時間	授業概要
妊娠期実習	2	90	助産診断に基づき、妊婦と胎児およびその家族に助産ケアおよび保健指導が実践できる能力を養う。 妊婦とその家族に出産準備教育が実施できる能力を養う。
分娩期実習	4	180	助産診断に基づき、産婦とその家族ケアが実践できる能力を養う。 原理原則に基づいて分娩介助ができる能力を養う。
産褥期・新生児期実習	3	135	助産診断に基づき、褥婦と新生児に助産ケアおよび保健指導が実践できる能力を養う。 産科施設の機能と施設内における助産師の役割を理解し、助産業務管理を実践できる能力と専門職としての助産師の使命と態度を養う。
地域母子保健実習	2	90	地域における母子保健活動の実際を理解する。 助産診断に基づき、地域で暮らす母子およびその家族への支援が実践できる能力を養う。 子育て期および思春期にある対象への健康教育が実践できる能力を養う。

5 授業科目と修得単位および担当講師

教育内容	指定規則 単位数	学則	授業科目	学則 単位	時間	内 容	実施 時間数	所属 職種	担当講師 (*は実務経験有)
基礎 助産学	6	7	助産学概論	1	15	助産の基本概念・倫理綱領	15	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			生命倫理	1	15	生殖医療・生命倫理	8	ミオ・フェイリティクリニック 院長 産婦人科医師	*見尾保幸
						不妊症看護・出生前診断	4	中央病院助産師 不妊症看護認定看護師	*橋本万住子
						リプロダクティブヘルス への支援	3	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			家族社会学	1	30	家族の概念と発達課題	16	京都芸術大学 他 非常勤講師	渡部容子
						親子関係と子どもの発達	12	東京都立大学健康福祉学部 准教授 理学療法士	儀間裕貴
						発達や社会性への支援	2	鳥取大学地域学部 地域学科講師	福山寛志
			健康教育論	1	15	相談・教育の基礎と実際	12	鳥取大学地域学部 学部長 教授	塩野谷 斉
						相談・教育活動の過程	3	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			女性のライフステージ 各期の特徴	1	15	生殖の形態・機能 思春期・成熟期の疾患	9	レディースクリニックひまわり 副院長 産婦人科医師	*小笹貴子
						更年期・老年期の疾患	6	松江市立病院 産婦人科医師	*入江 隆
			母子の健康科学	1	15	母子と栄養	4	厚生病院 管理栄養士	*厚生病院管理栄養士
						母子と生活環境	2	鳥取県衛生環境研究所 研究員	県職員
						母子と運動	4	鳥取市立病院 助産師 日本マタニティフィットネスインストラクター	*國本万智子
						母子と嗜好・薬物および 補充代替医療	5	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			心理演習	1	30	対象理解と援助者の姿勢 対象者のニーズに即した支援	30	臨床心理士 公認心理師	*林美奈子
			助産 診断・ 技術学	10	11	助産診断学	1	30	妊娠期の正常と異常
分娩期の正常と異常	14	あけしまレディースクリニック 院長 産婦人科医師							*明島亮二
産褥期の正常と異常	2	厚生病院 産婦人科医師							*厚生病院医師
助産診断学の概要	2	倉吉総合看護専門学校 助産師							*専任教員
妊娠期のマタニティ診断	1	15				マタニティ診断と実践過程	15	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
妊娠期助産技術学	1	30				妊娠期のフィジカルアセスメント 正常経過にある妊婦への支援	26	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
						助産師外来の実際	4	厚生病院 助産師	*厚生病院助産師
分娩期のマタニティ診断	1	15				マタニティ診断と実践過程	15	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
分娩期助産技術学	1	30				分娩期のフィジカルアセスメント 分娩期における助産技術	18	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
						産婦と家族への支援	4	中央病院 助産師	*中央病院助産師
						分娩介助法	4	中央病院 厚生病院 助産師	*実習指導者
						フリースタイル分娩	4	西江助産院 助産師	*西江順子
産褥期・新生児期の マタニティ診断	1	15				マタニティ診断と実践過程	15	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
産褥期・新生児期 助産技術学	1	30				産褥期・新生児期における 助産技術	26	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			母乳育児推進のケア	4	西江助産院 助産師	*西江順子			

教育内容	指定規則 単位数	学期	授業科目	学則 単位	時間	内 容	実施 時間数	所属 職種	担当講師 (*は実務経験有)
助産診断・ 技術学			乳幼児成長発達論	1	30	新生児の適応生理・異常	15	厚生病院 小児科医師	*厚生病院医師
						乳幼児の健康診査・ 予防接種	2	岡本小児科医院 小児科医師	*岡本 賢
						生後4か月までの助産診断 乳幼児の事故の予防と対策	13	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			女性の生涯における 健康教育	1	30	女性のライフステージ各期にお ける健康教育の実際	2	レディースクリニックひまわり 副院長 産婦人科医師	*小笹貴子
						思春期・成熟期にある対象 への相談・教育	4	ひかり助産所 助産師	*平井和恵
						更年期・老年期にある対象 への相談・教育	2	厚生病院 地域連携室看護師	*厚生病院看護師
						ハラスメント	2	鳥取県男女協働未来創造 本部 未来創造課	県職員
						現代社会とジェンダー ドミスティックバイオレンス	6		尾崎俊也
						性的マイノリティの理解	2	ゆるしか	田中 或
						家族計画と受胎調節 ライフステージ各期の教育の実際	12	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			ハイリスク母子支援論	1	30	ハイリスク妊産婦・新生児 への支援	16	鳥取大学医学部 保健学科教授 助産師	*鈴木康江
						経過に異常がある対象 への支援	4	厚生病院 助産師	*厚生病院助産師
						産後うつ・愛着形成障害 への支援	4	松江赤十字病院 精神看護専門看護師	*齋藤涼子
						喪失体験への支援	6	鳥取短期大学 臨床心理士	*池谷千恵
			ハイリスク演習	1	30	異常の診断と対処法	4	厚生病院 産婦人科医師	*厚生病院医師
						会陰切開および裂傷縫合	2	あけしまレディースクリニッ ク院長 産婦人科医師	*明島亮二
						新生児蘇生法	4	厚生病院 助産師	*厚生病院助産師
						異常発生時の介入	4	厚生病院 助産師	*厚生病院助産師
						周産期医療の動向 緊急時・搬送時の支援	16	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員

教育内容	指定規則 単位数	学則	授業科目	学則 単位	時間	内 容	実施 時間数	所 属 職 種	担当講師 (*は実務経験有)
地域 母子保健	2	2	母子保健政策論	1	30	地域の特性と健康施策	4	東京都立大学 名誉教授 医師	星 旦二
						男女共同参画の推進	2	鳥取県男女協働未来創造 本部 県民運動課	県職員
						鳥取県における女性活躍推 進の取り組み	2	鳥取県男女協働未来創造 本部 未来創造課	県職員
						子育て王国とっとりの 取り組み	2	鳥取県	県職員
						特別な支援を必要とする 母子への支援	2	ソーシャルワーカー	森 英世
						行政組織との連携	2	倉吉児童相談所 判定保護課長	県職員
						地域のニーズの把握	4	湯梨浜町 子育て支援課 保健師	*保健師
						母子保健の動向 助産施策・地区把握	12	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
			子育て支援論	1	30	地域における助産師の役割	2	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員
						地域相談活動	2	琴ミント助産院 助産師	*米田琴美
						地域包括ケアシステム 新生児訪問指導	6	ひかり助産所 助産師	*平井和恵
						産後ケア事業	4	産後ケアやわらかい風 助産師	*川口映子
						保健師の活動	2	保健師	*稲田千明
						栄養士の活動	2	管理栄養士	*岩山美由紀
						理学療法士の活動	4	三朝温泉病院 理学療法士	*大丸利沙
						保育士の活動	2	倉吉市子育て総合支援 センター主任保育士	*保育士
						小児在宅医療	2	鳥取県	県職員
						児童虐待への支援	4	総合療育センター 精神科医師	*佐竹隆宏
						助産 管理	2	3	助産管理
助産所の業務管理	8	西江助産院 助産師	*西江順子						
災害対策・支援活動	2	山陰労災病院 助産師	*都田奈緒						
海外における助産師活動	2	産後ケアやわらかい風 助産師	*川口映子						
助産学の専門性の発展	7	倉吉総合看護専門学校 助産師	*専任教員						
研究方法一般論	1	30	助産学研究の目的と意義	22	倉吉総合看護専門学校 助産師				*専任教員
			学会参加	8	倉吉総合看護専門学校 助産師				*専任教員
助産学研究	1	30	疫学からみる母子保健統計 データの分析方法	20	鳥取大学医学部 助教 医師				*桑原祐樹
			研究計画書の作成	10	倉吉総合看護専門学校 助産師				*専任教員
助産学 実習	11	11	妊娠期実習	2	90				妊娠期
			分娩期実習	4	180	分娩期	180	厚生病院 中央病院 打吹公園クリニック	*専任教員 *実習指導者
			産褥期・新生児期実習	3	135	産褥期・新生児期	135	厚生病院 中央病院	*専任教員 *実習指導者
			地域母子保健実習	2	90	地域母子保健	90	市町村 琴ミント助産院 上灘小学校	*専任教員 *実習指導者